

7月の声を聞くと、「夏休み」はすぐそこに。

この慌しさを乗り越えれば、楽しい夏の訪れも間近です。さあ、もうひと頑張り。

たまには教育からちょっと離れて、夏の読書にこんな本はいかがでしょう。

『四季のうた～詩歌の花束』 長谷川 權著 (中公新書)

今も、俳句ブームは続いているようです。学校でも国語の教科書に短歌や俳句がたくさん見られるようになってきました。本書では季節の移ろいを鮮やかに描き出す古今の作品が紹介されています。きっとお気に入りの一句・一首が見つかるでしょう。

『伸び続ける子が育つ！お母さんへの60の言葉』 高濱正伸著 (青春出版社)

佐賀県武雄市教育委員会は、民間学習塾「花まる学習会」と連携し官民一体型の学校をつくること発表。話題となりました。本書の著者、高濱正伸氏はその代表者です。

子育てに関する親向けの書。

『食の地図～日本各地の味を楽しむ』 岸 朝子監修 (帝国書院)

今年の夏はどこかにお出かけのご予定がありますか？

旅行の大きな楽しみは、その土地のおいしいものを食べること。

そんな時、大いに参考になる本です。見ているだけでも満足になれる(?)本。

『古地図で見る阪神間の地名』 大国正美編著 (神戸新聞総合出版センター)

「古地図は歴史のロマンの宝庫、涙めども尽きぬ無限の情報源、地名は歴史の証人、そして地域の遺産」(あとがきより)

住んでいる足元は古代より続く土地であり、地名であった。読めば目からウロコのことばかり。

時間の余裕のある夏にこそ「評伝」はピッタリ。

偉大な先人の人生をじっくりとふり返ってみましょう。

今年こそいかがですか。

『評伝 今西祐行～一つの花』 関口安義 著 (教育出版)

『評伝 茨木のり子～清冽』 後藤正治 著 (中央公論社)

『評伝 大村はま～ことばを育て人を育て』 苅谷夏子 (小学館)